



小牧市民病院 形成外科医師

奥村 誠子



わが国における乳がんの罹患率は増加傾向にあり、今や女性のがんの第1位となっています。

女性にとって乳房を失うということは心理的に大きな負担になることがあります。

乳房再建の特徴は失いかけていたものを再び取り戻し、QOL（生活の質）を向上させるということにあると思います。乳房再建により、病气から解放されて日常生活に復帰することが容易になることもあります。

**乳房再建の適応**

乳房再建は主に乳房全摘の場合に行われます。乳房再建の手術を受けるかどうかは患者さん自身の希望があるかどうかです。

**乳房再建の方法**

乳がん手術の大きさ、残存した組織の量、反対側の乳房の大きさ・形などがどの方法を用いるかの目安になります。また体型、職業、趣味なども方法を選択するのに重要な要素となります。いずれの方法を選択してもさらに乳輪、乳頭の形成術を行い完成します。

**1. 人工乳房を使用する方法**

組織拡張器（ティッシュ・エキスパンダー）と人工乳房（コヒーシブ・シリコン）を用いる方法です。

乳房切除術の傷跡に切開を加え、皮膚と筋肉の下に、しばめた風船状のエキスパンダーを挿入しま

す（エキスパンダーが乳房切除術を受けた際に挿入されることもあります）。エキスパンダーを留置した後生理食塩水を満たします。術後1〜3カ月、皮膚を引き伸ばすために外来でさらに生理食塩水を加え、徐々にエキスパンダーを大きくします。この拡張を行っている間もほとんど通常の日常生活を行えます。

十分なまでに皮膚が伸びた後は、注入は終了しますが、3カ月ほどそのままにおいて、人工乳房に入れ替えます。

この方法は、保険の適応がなされていないため、自費診療となります。

**2. 自分の身体組織を移動する方法**

自分の組織を身体のある場所から他の場所へ移動することによる乳房再建の方法です。

**(1) 広背筋皮弁法**

背中皮膚と脂肪、筋肉を乳房切除術が行われた部位に移植します。背中の筋肉は薄く、脂肪も少ないため、健側乳房が大きい場合、乳房の膨らみには人工乳房を併用する必要があります。この手術法は胸部の乳房切除術による傷跡に加えて、背中にも傷跡を残します。

**(2) 腹直筋皮弁法**

垂直に走る腹部の2つの筋肉（腹直筋）のうち1つまたは両方の一部

（約3.5cm）を、腹部の皮膚と脂肪を付けて乳房の領域へ移植します。この方法では胸部の乳房切除術の傷跡に加えて、下腹部を横断する水平方向の傷跡を残しますが、ウエスト周りがすっきりします。この傷は下着の中に隠れます。

この方法はすべての方法の中でも体力的な負担が大きいです。しかし、できあがった乳房はとても柔らかく、自然です。

自分の組織を使う方法は保険診療で行います。

**乳頭・乳輪の再建**

乳房の輪郭が再建されて数カ月間を経てから、乳頭・乳輪の再建を行うことが一般的です。乳頭・乳輪を再建するためには、再建した乳房の大きさや位置が落ち着いてからになります。

方法としては局所皮弁で作成する方法や反対側の乳頭・乳輪を半分移植する方法があります。ただし、半分移植する方法は乳輪や乳頭が小さい方には適しません。その他に、Tattoo（入れ墨）を用います。

乳房再建を希望される方は、当院の形成外科外来を受診してください。

問合先 市民病院（☎76-41

311）